

氏 名	金 珠 也
学位(専攻分野)	博 士 (学 術)
学 位 記 番 号	博 甲 第 190 号
学位授与の日付	平成 11 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研 究 科・専 攻	工芸科学研究科 機能科学専攻
学 位 論 文 題 目	日本強占期の建築団体「朝鮮建築会」の機関誌『朝鮮と建築』と住宅改良運動に関する研究
審 査 委 員	(主査) 教 授 河 邊 聡 教 授 西村征一郎 教 授 日 向 進

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、日本植民地時代の韓国において建築文化を主導していた朝鮮建築会に着目し、その機関誌であった「朝鮮と建築」を資料として建築活動について考察したものである。

朝鮮建築会は 1922 年に日本人建築家を中心に設立され、1945 年までの 24 年間活動していた。機関誌「朝鮮と建築」に記載されている 24 年間の建築活動の内容について調べ、その中の活動の一つであった住宅改良運動を取り上げ主に考察している。

論文は序を含めて 4 章から構成されている。

序では、研究の意義と目的、関連既往研究及び論文の構成また用語の定義を示している。

第 1 章では、「朝鮮建築会」設立の背景、会の発展の状況を示した後、その事業活動を会誌の発行、講演会・座談会・展覧会の開催、および懸賞建築設計の実施に分けて詳述している。

第 2 章では、機関誌「朝鮮と建築」を建築専門月刊雑誌としてとらえ、発刊の意義を考察した上で、発行された 265 号の内、入手できた 263 号について掲載記事の内容を理解し、内容の時期別変化、すなわち当時の建築にかかわる関心事について調べている。更に住宅関連の記事に着目し、内容の動きを詳細に調べている。

第 3 章では、朝鮮建築会にとって重要な活動の一つであった住宅改善運動について考察している。内地式住宅と朝鮮式住宅に分けての様式別の考察、および 1920 年代、1930 年代、および 1940 年代に入ってから戦時下住宅という時代別の特徴を考察している。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

韓国の日本植民地時期は、「朝鮮」という特別な状況にあり、韓国の建築歴史の中での日本人による建築文化形成の時期である。本論文は、このような特別な時期の韓国の建築研究を内容としている。韓国では、この特殊な時期を「不要」という言葉で処理され、当時の建築物は破壊され、資料も消去されたという。日本植民地時期の建築は、韓国の建築史において、過去と現在を繋ぐものという認識があるにもかかわらず、実際の研究は最近になって始められたという状況にある。本研究はこの一部をなすものである。

日本国内に分散所蔵されていた機関誌「朝鮮と建築」の 24 年分を収集し、これを資料として内容整理し、朝鮮建築会の組織と活動の全貌を明らかにしている。その結果従来考えられていたような、朝鮮総督府の傘下機関でも、日本建築学会の支部団体でもなく、活動の内容から見て、独自に活動した建築団体であると結論している。また朝鮮建築会は日本人建築家を中心として設立されたものであったから、植民地

という状況と併せて、その活動は韓国内への日本建築文化の流入の機会となり、その影響を受けて、韓国の建築の伝統は変化する。この点を住宅改良という問題から論じている。設立当初から朝鮮建築会の活動の一つとして住宅改善運動はあった。それは「内地式住宅」「朝鮮式住宅」に分けて行われた。初期の1920年代には、改善は内地式住宅を中心として行われ、30年代に入り朝鮮式住宅の改善が取上げられる。そうした中で住宅の改善は両様式が融合した「融合型」が良いという主張が出される。しかし具体案として提出されたものは、内地式住宅の改良案と変るところはなかったと論者は見ている。40年代には「皇民化」あるいは「日本精神」の思想が改善理念として導入され、朝鮮の住宅を日本精神を高揚させるための住宅へと改良する試みが為される。以上の流れを踏まえて、内地式住宅は一つの住宅形式として定着したのに対して、朝鮮式住宅については、朝鮮建築会が納得できる形の改善案は最後まで生まれなかったとし、日本人の住宅ではない朝鮮式住宅を元にした住宅形式を確立しようとしたことに無理があったと結論づけている。加えてこの時期の住宅研究の成果を踏襲して韓国の住宅は、開放後韓国人建築家による改善運動に繋がっているとしている。

日本の植民地には、韓国の外に満洲、台湾その他がある。その中でも韓国に関する研究は日本では近年までほとんど行われてこなかった。朝鮮建築会に関する研究は、韓国の近代建築の発展の解明にきわめて重要な部分を成すものであり、本論文が今後のこの研究にとって大切な位置を占めるものと評価する。

本論文にかかわる公表学術論文は3編である。いずれも審査制度のある論文集であり、筆頭著者のものは2編である。加えて審査中のもの1編がある。

○金 珠也、河辺 聡「朝鮮建築会による韓国の住宅改良計画案について」、日本建築学会第2回アジアの建築文流国際シンポジウム論文集、pp.429-432、1998年9月

○金 珠也、Yoon Jae-Woong、河辺 聡

일제강점기의 건축단체 「조선 건축회」에 관한 연구(1)

-회지 「조선과건축」을 통해 본 건축회 활동을 중심으로-

Research on the strong Japanese occupation period - Architecture group by Chosen Institute (1)

韓国住居学会論文集、第9巻3号、pp.37-47、1998年9月

○Yoon Jae-Woong、金 珠也

大邱地域 日・洋折衷式 住居의 空間 變化過程에 관한 研究

A study on the Process of Spatial Transfiguration for the Japanese-Western Eclectic Houses in Taegu province

韓国住居学会論文集、第5号2号、pp.15-28、1994年12月

○金 珠也、河辺 聡「朝鮮建築会機関誌「朝鮮と建築」の書誌学的研究」、日本建築学会計画系論文集、投稿再査読中

この外に参考論文3編がある。